

函館市小学校体育研究会 報告

1. 研究構造について

< 函館支部 研究主題 >

運動に魅力を感じ、自ら学び、高め合う体育活動の創造
～生涯スポーツを目指したカリキュラムの実践を通して～

< 目指す子ども像 >

「かかわりの中で主体的に運動に取り組む子」
運動に夢中になって取り組む子 仲間と学び合い伝え合う子 運動課題の解決を目指して努力する子

< 具現化に向けて >

- 子どもの発達の段階や運動の様相を踏まえたカリキュラムの実践・検証・改善
- 系統的な「学び方」の指導→グループ学習を中核とした学習展開
- 学びを支える授業づくり→学習資料の提示、子どもの実態に応じた場の設定、自己評価と相互評価

< 今年度の重点活動 >

- ① 「函館の体育」の学び、共有、実践～『グループ学習』を中核に
- ② 中学校との連携
- ③ 全道大会渡島大会への積極的参加

< 今年度の授業実践 >

平成30年11月7日(水)
函館市立桔梗中学校 外崎教諭
中学校1学年『ダンス』

平成30年11月16日(金)
函館市立桔梗小学校 弓庭教諭
小学校6学年『リズムダンス』

平成31年2月 (日にちは調整中)
函館市立北星小学校 前田教諭 4学年『キャッチバレーボール』

2. 授業実践報告

今年度の授業実践については、重点活動に基づき、函館市中学校体育研究会との連携事業を行った。夏季休業中に小・中それぞれの研究部長と授業者として打ち合わせを設け、『小中のつながり』を意識した研究授業を行うこととし、表現運動を行うことになった。本研究会副部長である弓庭教諭が、桔梗小学校の体育専科として体育指導にあたり、進学先の桔梗中学校の生徒も、弓庭教諭に指導を受けている子がほとんどである。そこで、

- ・視点1～小学校での学習指導が中学校においてどのように生かされるのか
- ・視点2～中学校で小学校の指導が生かされるためのよりよい指導の在り方について

という2つの視点を設け、小学校1本、中学校1本の授業研究を行うこととした。

(1) 桔梗中学校の実践より

<学ばせていただいたこと>

- ① 1単位時間の授業の導入、単元全体において、指導者が絶えず明るく率先してかかわることが大切なこと
- ② 生徒のグループ編成を、指導者がねらいをもって構成すること
- ③ 扱う曲や、生徒が創作するダンスの長さを統一することで、個々のグループが構成メンバーの持ち味を生かした表現を行うことができること
- ④ 小学校での『楽しい体育』の経験が、中学校でも生かされること

(2) 桔梗小学校の授業実践より 単元名「リズムダンス」(表現運動) 6学年 指導者 弓庭美帆教諭

① 研究の内容とかかわって⇒楽しさ(機能的特性論)を味わわせるための具体的な取り組み

<グループ学習の効果的な活用>

- 基本的な動きの習得に向けては一斉指導を行い、動きの特徴をつかませる。その素地のもと、児童がダンスを考える場面では、「グループ学習の」学習形態で行うことで、主体的・対話的で深い学びへとつなげ、ダンスの楽しさをより味わわせる。
- ダンスの学習は、ダンスを踊ることに対する不安が強いと、心も体も動かなくなることから、そのような児童も安心した環境の中で踊ることができるように、「全員がダンスと楽しみ、全員が上達する」ことを児童に伝え、児童自身でグループづくりをさせる。

② 学習の道すじ (本時3/5)

時	1	2	3(本時)・4	5
ねらい	オリエンテーション	基本の動きを理解する。(一斉指導) ※使用曲「How Gee」 *Black Machine	曲の感じやリズムに合わせて基本の動きを組み合わせ、グループでダンスを考える。	ダンスパーティーを行う。
主な活動	○単元の目標と学習の道すじを理解する。 ○学習の進め方を理解する。 ○学習マナーについて確認する。 ○ロック、サンバのリズムの特徴をつかむ。	○ウォームアップ ○基本の動きを学ぶ。 ○振り返り (次時の学習の確認を含む)	○ウォームアップ(基本の動きの確認を含む) ○グループで基本の動きを組み合わせて踊り、4×8の長さのグループのダンスをつくって踊る。 ○振り返り	○ウォームアップ ○グループごとにダンスの確認をする。 ○ダンスパーティーを行う。 ○振り返り

③ 授業について

児童は、運動やスポーツを「みんなで」楽しむ基礎ができており、男女分け隔てなく学び合いができるクラスである。事前アンケートにおいて、半数以上の児童が「楽しさを感じにくいときがない」と答えるぐらいであるが、中には、思い通りに体が動かないとき、人に見られるときに、楽しさを感じにくいときがあることもわかった。



そこで、上記の通り、グループ学習の形態を大いに活用し、「リズムダンス」の授業を構築していった。昨年度にダンスをたっぷり味わった学年であったため、2時間目における11個の基本の動き(たくさんある動きから、指導者が小学生に合うものを選出したもの)への理解も予想よりも早かった。

本時では、初めてグループごとに分かれ、4×8のうちの半分を目標に各グループで学習を進めた。子どもたちは、各々どのような動きを、どのように取り入れるかを相談し合いながら、動きのわからない子には教えてあげる、または、自分から進んで聞く姿(学び合いの姿)が見られた。

何より、「先生、朝の時間とかに練習できないのですか?」と、日常の中にも運動に親しもうとしたことが、何よりの授業の成果と言える。

実際に授業を行うことで、ホワイトボードやワークシートの扱いについては、踊りに没入させるためには持たせて取り組ませない方がよいなど、子どもの実態に合わせた資料の提示や場の工夫なども、授業を構築するうえで大切な部分であることも再認識することができた。そして何より「ダンス本来のもつ楽しさ」を子どもに十分に味わわせる授業をしていただいたことが、全研究員の「自分たちの学校でもやってみよう」という気持ちにもつながった研究授業であった。

表現領域においては、まだ具体的な函館カリキュラムが組まれているわけではない。今後は、この中学校体育研究会との連携を一層大切にしながら、我々小学校の教員として、日々子どもたちを育むための教育活動を行っていく。

